

生駒市における 学力向上の実践的な 取り組みについて



生駒市教育委員会事務局
教育指導課

生駒市は奈良県の
北西部に位置して
おり、大阪府と京都
府に接しています。



人口 計120,244人
男性 57,212人
女性 63,032人
世帯 50,036世帯

[2018年7月1日現在]

(C)INCREMENT P. CORP.

生駒市の小中学校について

- ・ 小学校数 12校
- ・ 中学校数 8校

※うち、生駒北小学校と生駒北中学校は、
同じ施設内に設置されています。

1学年の平均学級数

- ・ 小学校 1学年当たり 3.1学級
1年 30人学級 H20年度～
2年 35人学級 H23年度～
3～6年 40人学級
- ・ 中学校 1学年当たり 3.8学級
1～3年 40人学級

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果について

	小学校(6年)				中学校(1年)			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	算数A	算数B
生駒市	78.0	63.0	84.0	53.0	82.0	77.0	71.0	53.0
奈良県	74.0	56.0	78.0	45.0	78.0	72.0	65.0	48.0
全国	74.8	57.5	78.6	45.9	77.4	72.2	64.6	48.1

平成29年度 奈良県学力・学習状況調査の結果について

	小学校(4年)		中学校(1年)	
	国語	算数	国語	算数
生駒市	73.5	81.1	77.7	73.4
奈良県	69.4	77.5	75.3	71.3

生駒市の具体的な取り組みについて

- 全国・奈良県学力調査結果の公表について
- 学校司書の配置について
- 学びのサポーターの活用について
- 外国語教育について
- 成果と今後の課題について

➤ 全国・奈良県学力調査の公表について（市教委）

- 市のホームページにて結果と市教委の考察を公開しています。
- 教育課程協議会を開き、各学校の取り組みについて情報交換を行っています。



➤ **全国・奈良県学力調査の公表について（各学校）**

- 各学校ごとに学校便りなどを通じて、各校の分析結果を保護者に伝えていきます。（市教委より指導）
- 各学校で分析結果について研修を行い、授業づくりの改善を行っています。

➤ **全国・奈良県学力調査の公表について（各学校の実践事例）**

- 実際に問題を職員で解答し、その傾向やそこから分かる児童の学習状況について研修を行う。
- 「家庭学習の手引き」を作成して配布している。（昨年より県からも配布されるようになりました）

➤ 全国・奈良県学力調査の公表について（各校の実践事例）

- 定期テスト期間中及び夏期休業における学力補充の実施。
- 調査結果を職員が共有することにより、児童の実態に即した家庭学習(宿題)や補充学習(学習プリント等)を工夫している。



➤ 学校司書の配置について

- 司書教諭及び担任等の支援を行い、学校図書館の活性化と児童生徒の読書活動を推進しています。
- 市の図書館司書に相談し、人員を確保。各小中学校に週3日配置。



➤ 学びのサポーターについて

- 学生ボランティアを募集し、学校の取組を支援し、学校教育の充実を図る。
- 主に教科学習や特別支援教育、部活動指導の補助に活用。
- 各校、週3時間×2日×30週をめどに担当している。（謝礼：時給1000円）
- 対象は生駒市内の大学に通う学生、または教員を目指している生駒市内在住の大学生。
（帝塚山大学と連携している）

HP



➤ 外国語教育について（H30年度）

◆ 外国語活動の取組体制（1学級あたり）

- 低学年 年間10時間
- 中学年 年間35時間
- 高学年 年間50時間
- 小学校1・2年生用に生駒市オリジナルの外国語活動教材「READY... GO!」を作成しました。

映像

HP

➤ 外国語教育について（H30年度）

◆ ALTの活用について（1学級あたり）

- 低学年 年間 10 / 10 時間
- 中学年 年間 16 / 35 時間
- 高学年 年間 16 / 50 時間
- 生駒市で直接採用したALT 9名のうち、8名を小中学校に、1名をコーディネーターとして指導課に配置している。

➤ 外国語教育について（H30年度）

◆ わくわくイングリッシュサポーターの活用について （1学級あたり）

- 高学年 年間 12 / 50 時間
- 英語に堪能な地域人材を募集し、担任の業務軽減と外国語活動の推進を図っています。（謝礼：時給1600円）



➤ 成果と今後の課題について

◆ 成果について

- 学力・学習状況調査による取組から
 - ・ 研修や世代を超えた教師間の交流が増加
 - ・ 課題を共通認識して取り組んでいる。
 - ・ 保護者の理解と協力が学校評価に見えてきた。
- 学校司書活用により児童生徒の読書活動が増加
 - ・ 本の紹介や読み聞かせによる読書意欲の向上
 - ・ ビブリオバトルの参加

➤ 成果と今後の課題について

◆ 成果について

- 学びのサポーターの活用による成果
 - ・ 教員を目指す学生の意欲向上
 - ・ 支援を要する児童生徒へのかかわる時間の増加。
 - ・ 指導の負担軽減により、深い学びへの授業づくりに対する担任の意識が向上している。

➤ 成果と今後の課題について

◆ 成果について

- 外国語教育への取組による成果
 - ・ ALTやわくわくイングリッシュサポーターの補助により担任の負担が軽減されている。
 - ・ ALT等の活用や、市による指導計画や教材の作成により、担任主導の授業へ意欲的に移行され始めた。
 - ・ コーディネーターにより、市が作成した指導計画どおり授業を実施できるようになった。

➤ 成果と今後の課題について

◆ 今後の課題について

- ICTを活用した教育をどうすすめていくか
 - ・ 各学校での現状について **映像**
 - ・ 大型モニタの導入
(H30 7月 小学校3～6年普通教室)
中学校1～3年普通教室)
 - ・ タブレットを使った授業に向けて **映像**

ご清聴ありがとうございました。

